

蔵のある都市復活

福岡城だより

2013.1

JANUARY

No. 36



迎春

落葉後の美しい多聞櫓の石垣

甦れ！福岡城を観光資源として！

NPO法人福岡城市民の会理事
福岡城・鴻臚館の将来を市民と考える実行委員会事務局長

岡部 定一郎



明けましておめで
とうございます。

筑前黒田藩領五十
二万三千石の藩領内
の人々と共に、和平
豊かな地「福岡」と

言う地縁を築いた「黒田官兵衛」が動き出す。
黒田家ゆかりの故郷、福岡の市といわれた
備前長船の地名と同じ「福岡」。福と重なる
福岡の地名から「福」を呼ぶ丘、即ち福岡
と名づけた「福岡城」。それが一六〇〇年頃
とすると、凡そ四一〇年余りの歳月となる。
後生の我々が、その遺跡をどのようにして
護り、残し伝えていくのか、この絆を背
負ってスタートした市民の会が、平成十四
年（二〇〇二）である。その間十年の活動
である。今、我々に大きな追い風が吹いて
きた。

福岡市民の貴重な歴史的資源を何とかし
ないと…多くの先人たちが訴え、唱えてき
た想いが幸いにして、二十六年度NHKの
大河ドラマ化によって、メディアの声も観
光の風も吹き始めてきた。

苦節十年余り、歴史が三重に鴻臚館・福
岡城・平和台と重なる福岡城の公園一帯に
民意の声を力にしたいと願う。

文化財を至情観光資源として見つめなお
し官産民学、メディア力が一体となって福
岡市の観光財としての軸足が福岡城周辺に
移されて来たように感じる。その大切な年
として、新年が明けてゆく実現の平成二十
五年でありたい。

第3回「市民フォーラム」

福岡城・鴻臚館を観光都市福岡のランドマークに

【特別講演】

「待ってましたっ お城の魅力」春風亭昇太師匠

「黒田如水と福岡城」小和田哲男名誉教授

福岡城・鴻臚館の将来を市民と考える実行委員会 会長

(鴻臚館・福岡城歴史・観光・市民の会 理事長) 石井 幸孝



「福岡城・鴻臚館の将来に向けた市民参加プロジェクト」の本年度肝いりの、第3回市民フォーラム「福岡城・鴻臚館を観光都市福岡のランドマークに」が、平成24年11月1日(木)午後、福岡市役所15階講堂で開催された。定員400名に600名を超える申し込みがあった。寸前に平成26年のNHK大河ドラマが「軍師官兵衛」にとの発表があり、大変評判のいい行事になった。

当日は、内容の良さ、講師の顔ぶれといい、時々笑いもでる「博識と風格とウィット」に富んだと、自負しているくらいに盛り上がりになった。アンケートでも「大変良かった」の答えが大勢を占めていた。

まず、特別講演として、「お城好き」で有名でもあり、最近評判の高い落語家春風亭昇太師匠の「待ってましたっお城の魅力」「日本人は天守閣が好きで、天守閣がない城は「何も無い」となりがちですが、最近では天守閣の無い城も雑誌等で取り上げられるようになりました。地元の歴史に誇りを持ち、石垣や堀などの本物を大事に将来世代へ伝えていくことが重要です。現地やパンフでもよく説明すべきです。」

次に、戦国時代の歴史学者でNHK大河ドラマなどの時代考証で活躍する小和田哲男名誉教授の「黒田如水と福

岡城」「名築城家によく加藤清正と藤堂高虎が挙げられますが、私は黒田如水も加えます。前者は高石垣の名手、如水は縄張の名手です。戦国期は、軍略を練る「軍師」の素養を持った人が、縄張も手掛けていたと考えられます。

関ヶ原合戦後、子・長政が筑前52万石に増増され、培った築城技術を全投入して福岡城を作りました。天守の有無について、私は3、4年前まで「無かった」と考えていましたが、細川家資料等の出現で現在説に少し傾きました。「有った」と断定はしませんが「無かった」という従来の言は訂正します。」

御両所の講演の後、「新しい公共プロジェクトの報告と精力的に進めている「ブランドデザイン」の解説を行った。特に「観光」面での発展を考えた時、全国の人々に(できれば外国人にも)思いついてもらえる「ランドマーク」がぜひ必要、その最大、最適の候補地が「福岡城・鴻臚館」ではないかと問題提起した上で、「たたきしろ」ともいうべき検討案を解説した。

①福岡城・鴻臚館の「お宝」と「問題点」を出していこう。「こんな膨大な城郭が都心の一等地にあるのに、樹木に覆われて外から立派な石垣さえ見えない」など。②福岡城・鴻臚館をこんな風にしたい。3つのエントランスアプローチを明確にしたい、ランドマーク

中核の本丸周辺にシンボルになる建物を復元整備したい。福岡城復元市民募金も考えたかどうか。③「樹木を切るな」(緑を守るため)、「樹木を切れ」(文化財を見えるように、守るためにも)、二つの市民意見は行政も管轄が別で、あけてもストップ。「本丸辺は大胆に切ろう」

「三の丸など周辺は緑を残そう」ではどうか。④天守閣はいろいろ議論があり、なかなか復元は難しそうだ。太いに史実などを議論したい。⑤「舞鶴公園」(福岡市管轄・国の指定史跡・現状あまり人を寄せつけない)と「大濠公園」(福岡県の管轄・史跡ではない、明るく市民で賑わっている)、いつそのこと一緒に「福岡城公園」にしたかどうか。

大体こんな「たたきしろ案」が、その後のパネルディスカッションでは、世論になったみたいで、議論が進んだ。今後、市民からの「ブランドデザイン」(当日詳しい資料を配布)への意見も大いに寄せてもらって、実行に繋がるようにしようということになった。たいへん実り多いフォーラムだった。

大河ドラマのロケハンもやがて始まるだろう。今日の盛り上がり大切に持続させていこうということになった。



第4回 黒田サミット in 瀬戸内市に参加して!

福岡市民の会 岡部 定一郎 事務局局長

平成二十四年十一月二十五日快晴に恵まれた早朝「福岡市」と云う地名の原点である備前岡山、長船の「福岡の市」へ向かうべく「一路新幹線」のぞみ」の乗客の人となった。

博多駅ではすでに藤香会の役員各位や(財)黒田奨学会の理事長以下理事も揃い、当会事務局も石井理事長、津田理事に小生を加えての十四、五名の集団となり更に別便の合流組を加えると約二十名の大集団となつての参加であった。

車窓の流れ行く景色に黒田都市サミットの想いを重ねて思いだした。およそ九年前の平成十五年(二〇〇三)十月二十五日福岡市国際会議場での第二回目となる黒田都市サミットを盛会裡に行つた事例の数々であった。「祝うたア! 福岡城四百年記念」として、その時の細目は当機関紙「お城だより」(No2・3号)の中に記録されている。

思い起こせば五年前第三回目的の「姫路市」で行つた黒田都市サミットの折りに五つの都市首長が揃つて「黒田官兵衛」を主人公にしたNHKの



大河ドラマ化を是非と提唱し、早速訴求活動に移した。その結果が本年十月初旬に制作決定としてニュースが

流れての大会だけに、大会会場の盛り上がりが違う。

新幹線「岡山」で下車、在来線で約三十分「備前長船」に下車する。その土地は黒田官兵衛(如水)の曾祖父よりの所在で黒田重隆・黒田(小寺姓)職隆氏へ移行する地縁の戦国時代「目薬屋」として財をなし、郎党を養い群雄割拠のなかにあつて力強い武力集団を築き武器製造の町としての天下の情勢を視ながら上洛の機をうかがつてきた黒田武士軍団の発生の土地である。

早速その墓処に参詣、ゆかりの宿場町にサミット協賛で催された「福岡の市」を見物、午後よりサミット会場へ向かう。備前長船は現在では瀬戸内市に編入され、一方琵琶湖のほとりにある木の本町(黒田家発祥の地)から参集した人達約六百名でサミット会場は満席の盛況であつた。

市長の歓迎の挨拶に始まり、十六代黒田長高公来賓あいさつ等のセレモニーに続き、黒田美枝子氏(歴史研究家)の記念講演「黒田官兵衛物語」を拝聴した後、五つの都市のそれぞれの代表者が黒田ゆかりの事柄と都市発展の事例を挙げて発表された。福岡市では藤香会の事務局局長であり、当会の理事の毛屋嘉明氏が代表でパライト映像を加えて、当会の活動現況や黒田奨学会の事業含む、三つの団体の年間作業のあらましを持ち時間一杯に説明を行った。終了後、席を変えて五都市交流懇親会が催され「黒田官兵衛」のNHK大河ドラマ制作決定を祝うパーティーが開催され官兵衛ゆかりの地縁を結ぶ絆を深めて無事終了した。

福岡城探訪

黒田家の墓地めぐり

東京(お江戸)では…

関ヶ原の戦功により黒田長政(初代)は黒田五万三千石の大名となり、以降江戸時代二百七〇年黒田藩は格式に順じて上屋敷(霞ヶ関)、中屋敷(赤坂)、下屋敷(羽田)、蔵屋敷(隅田川ほとり)が設けられ、参勤交代や幕府に忠誠を誓って藩の安定に努めた。

藩主の墓地については福岡市の崇福寺や東長寺に祀られているが、忠之(二代目)は世田谷区にある祥雲寺を建立し江戸の拠点墓地として納められている。

廃藩置県の後長薄(十一代)より長久(十五代)に至るまで青山墓地に葬られてある。



▲祥雲寺



青山墓地▶

会員からのよもやま話

郷土史のぼせもん倶楽部

高野 稔

子供たちに歴史を伝える

私は趣味として、郷土史のぼせもん倶楽部に籍を置き、私共が住んでいる当仁校区界隈を案内し語り部ガイド等をしてい

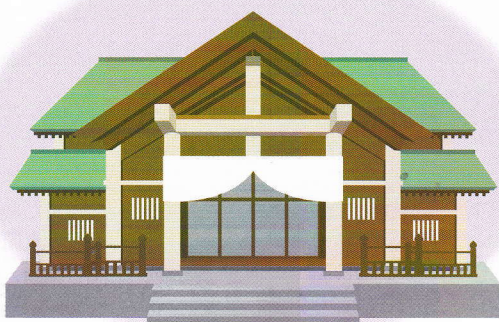
ます。歴史的題材も多く、地元の西公園には江戸時代、荒戸山(現西公園)に荒戸山東照宮(徳川家康公を祀る)を祀った場所に「光雲神社」があります。社号の光雲とは、藩祖・黒田如水の法名「龍光院殿」の光と、初代藩主・黒田長政公の法名「興雲院殿」の雲を一字ずつとって光雲神社としたものです。

2年ほど前から、地元の当仁小学校の6年生を対象とする社会科の授業の一環として出前授業で、地元の西公園一帯や唐人町や西学問所跡・八箇所のお寺などを子供たちに案内、指導してきました。子供たちは、グループで競い合い調査研究し、その成果をお父さん、お母さんを学校に招き、その前で発表会を開き、紙芝居のように用紙に大き

く書いて説明したり、パソコンでパワーポイントにまとめたグループもあり、なかなか多彩でした。

子供たちからは、多くの郷土の先人が残してくれた歴史的に立派な所にすんでいることを誇りに思うと感謝の言葉があり、父兄共々感激しました。

私達は、歴史の偉大さ楽しさを伝えられるように今後も頑張っていきたいと思っています。



城下町の今・昔

十一月からスタートした、古地図と現代地図を片手にガイドと一緒に福岡の「城下町」の変貌を巡るまち歩き企画は、毎回盛況で定員オーバーが続いています。1月・2月・3月と月一回の開催です。お問い合わせは、当会にご連絡ください。(裏面)

大手門・港町付近(江戸期)



大手門・港町付近(現在)



福岡城内クリーンアップ作戦

第2回・第3回と市民の方々の参加で清掃活動を続けています。

第四回：三月十日(日)

時間 午前九時〜十時

(雨天中止)

清掃後、いつもは閉まっていた「多聞櫓」の見学もできます。

福岡城を、ちよっぴり学習しながらのお掃除、ご家族やご友人どなたでも自由にお越しください。多くの方のご参加お待ちしております。

福岡城むかし探訪館の前に集合です。

詳しくは当会のホームページをご覧ください。(裏面)

NPO法人 福岡城市民の会(略称)発足9周年記念特別企画

黒田家歴史探訪・バスツアー

黒田家三代「如水・長政・忠之」の戦跡を訪ねる

黒田如水は、秀吉の天下統一戦を支える「軍師・官兵衛」として中国・四国戦線で活躍し天正15年(1587)の九州征討で戦功をあげ中津城を築きました。

黒田長政は、慶長5年(1600)関ヶ原合戦において大功をおさめ、筑前国52万石の大守(福岡藩初代藩主)となり広大な城を築き「福岡城」と名付けました。

続いて、福岡藩2代藩主忠之も秋月藩主長興ならびに東蓮寺(直方)藩主高政とともに島原の乱の鎮圧に出陣し、見事その任をはたしました。

皆様ご承知の通り、平成26年のNHK大河ドラマは「軍師・官兵衛」に決定しました。

当会では、平成25年の黒田家歴史探訪バスツアーとして、あらたに「黒田官兵衛：播磨・備前・備中の戦跡」と「黒田忠之：天草島原の戦跡」を加え、黒田如水・長政・忠之の三代にわたる武将の戦功を顕彰する歴史探訪バスツアーを下記の日程で実施します。

第1回	平成25年 3月 8日(金) 9日(土) (1泊2日)	黒田官兵衛の播磨姫路を訪ねる!! 黒田家のルーツ、「備前長船福岡」を訪ねる!! 秀吉&官兵衛「備中高松城」攻城戦跡を訪ねる!!	第5回	7月13日(土) (日帰り)	「筑後柳川と肥後佐敷・水俣戦跡」を訪ねる!! 《九州の関ヶ原》
第2回	4月13日(土) (日帰り)	「豊前・中津城」を訪ねる!! 《黒田家、九州最初の拠点》	第6回	9月14日(土) (日帰り)	黒田如水ゆかりの地を訪ねる!! 《「福岡城」と福岡近郊》
第3回	5月18日(土) (日帰り)	肥前名護屋城と黒田陣屋跡を訪ねる!! 《文禄・慶長の役》	第7回	10月12日(土) (日帰り)	「秋月藩」と「東蓮寺(直方)藩」を訪ねる!! 《黒田長政が2つの支藩設立を遺言》
第4回	6月15日(土) (日帰り)	「豊後・国東半島と別府石垣原の戦跡」を訪ねる!! 《九州の関ヶ原》	第8回	11月 9日(土) 10日(日) (1泊2日)	「天草島原の乱」戦跡を訪ねる!! 《福岡本藩と2つの支藩が一体となって戦った》

●旅行代金 第1回 48,000円(2名様1室)・ 50,000円(1名様1室)

第2回～第5回、第7回は各回9,000円 第6回は7,000円

第8回 28,000円(1～2名様1室)

●募集人員 各回30名(最小催行人員、各回20名)

●企画 NPO法人 福岡城市民の会 同行：岡部定一郎 野田弘信(当日案内) ●旅行実施 (株)西日本新聞旅行

お申し込み
お問い合わせ

(株)西日本新聞旅行

〒810-0001 福岡市中央区天神1-4-1
西日本新聞会館14階 (担当：安倍)

TEL 092-711-5518 FAX 092-711-1969

新規会員名簿 (平成24年12月31日現在)

一般会員(個人)

黒田 清利
川上 晴子

渡辺 かず子
上田 佐幸
小須田 全伊
山田 登美子

編集・発行 鴻臚館・福岡城歴史・観光・市民の会

〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-12-15 読売福岡ビル7階

TEL 092-716-8238 FAX 092-716-8254

HPアドレス <http://fukuokajokorokan.info>

E-mail staff@fukuokajokorokan.info

[デザイン・印刷] 城島印刷株式会社

福岡城市民の会



編集後記

あけましておめでとうございます。
26年度のNHK大河ドラマ「軍師・官兵衛」まで一年です。今年は福岡城を内外にアピールする絶好の機会です。フォーラムや清掃活動、福岡城散策など活発に取り組んでいきたいと考えています。
会員の皆様のご協力と新しい会員増強を願いつつ、今年もよろしく願っています。

市民討論会

日時 三月三十日(土曜日)

十三時半～十六時半

場所 アクロス福岡B1イベントホール
定員 四五〇名(申し込みをお願いします)
*詳しくは左記のホームページにてお知らせ致します。

